

平成 17 年 1 月 31 日 ブリーフィング説明内容

以下は、平成 17 年 1 月 31 日におこなったブリーフィングにおける弊社会長 細谷 英二による説明内容です。

【平成 17 年 3 月期 第 3 四半期情報の開示について】

まず最初に第 3 四半期の情報の開示についてでございます。ハイライト的にご説明したいと思います。

ひとことで申し上げますと、おおむね堅調に推移したのではないかと考えております。実勢業務純益も進捗率が 80%ということでありますので、4 分の 3 が過ぎたところで 75%と考えれば、順調に業務純益を計上しているということでございます。

また、経費率についても 50%以下を維持しているということでございます。

それから、純利益でございますが、5 社合算で 3,048 億円ということで、中間期での業績予想で、2,880 億円ということを目標としておりましたので、第 3 四半期でその目標を上回ったということであります。なお、銀行の経営の場合は第 4 四半期で数字が動きますので、今のところ、業績見通しの修正は考えておりません。

不良債権の処理の進捗状況でございますが、不良債権比率が 4 社合算で、4.1%ということで、これも順調に不良債権の処理が進んでいるということで、3 月末目標の 3%台ということが確実なものになってきたということでございます。

政策投資株式の見直しでございますが、これも 12 月末で 5,300 億円台になっているということであります。3 月末の目標が 4,000 億円ということでございますが、すでにお取引先との間で、見直しのお約束ができているのが、約 1,000 億円できておりますので、ほぼ目標達成のレベルまでできているということでございます。

それから、預金・貸出金の状況でございますが、個人預金も順調に増加しているということで、ブランドの回復が進んでいるということであります。特に右肩下がりが続いておりました近畿大阪銀行につきましても、個人預金がプラスに戻ってきたということで、グループ全体のブランドが回復してきたということが言えるのではないかと思います。

貸出金であります。9 月末と 12 月末がともに 25.8 兆円ということで、底打ち感が出ております。細かい数字であります。100 億円強のプラスになっているということであり。しかしながら、12 月は決済用の資金が必要でありますので、これで底を打ったことが確認できたというレベルではありませんが、この傾向から言って、あと半年内ぐらいには底打ちの可能性が出てきたのではないかなということであり。最近行きました海外 IR においても、あと半年の数値をしっかりと計上して、底打ちをさせたいというメッセージを出してまいりました。

再生勘定につきましても、当初の 4 分の 1 のレベルまで低下してきました。これも、順調に推移してきているということであり。

その他の数字につきましては、資料を参考にいただければと思います。

貸出金については、まだまだ苦戦をしておりますので、これで安心しているわけではありませぬので、これからの半年の間にぜひ底打ちさせたいということであり。

【りそな信託銀行株式会社との株式交換契約書の締結について・自己株式の取得について】
すでに公表しております通り、りそな信託銀行の100%子会社化に伴います、一連の手続きについてお話をさせていただきます。

なお、最初にお断りさせていただきますが、少数株主の皆様との契約上、守秘義務条項等が入っておりますので、具体的に株式交換を行う相手方については、アナウンスメントできませんことをご了承ください。

手続きについては3つ必要だということで、まず、りそな信託銀行とりそなホールディングスとの間で、株式交換契約を締結するということとなります。

スケジュールとしては、17年3月22日に株式交換を行うということとなります。

これまでの一連の経緯を補足的に申し上げますと、昨年、新健全化計画を発表する前に、各少数株主の皆様へ、りそな信託銀行の100%子会社化に関する協力要請をいたしました。ある程度前向きな回答をいただきましたので、新健全化計画で大きな柱として計上させていただきます。その後、11月後半から、各少数株主の方と具体的な交渉に入っております。

当初、私どもとしては、現金で株式を買い取るということをお話させていただきましたが、一部の株主の方から、株式交換でというご要望をいただきました。

そういうわけで、100%子会社化をスムーズに進めるためには、その要望にこたえなければならぬということで、当然選択肢としては、新株を発行するか、既存の株式の中で対応するという両方の選択肢がありますが、株式の希薄化というのは、株主の皆様に対してネガティブな影響を与えますので、自社株を取得するということが株式交換を実行することであることを検討してまいりました。

自社株の取得につきましても、二通りのやり方があるわけでありまして、市場から買い取ってくるという方法と、大口の株主等から取得するという選択肢が当然ありうるわけがあります。市場から買ってくるといっても、今回、相当大きな株数になるわけですので、いっぺんに市場から買い取ることは非常に困難であるということで、自社株取得に時間をかける必要があります。取得に時間をかけるということは、株価にも非常に変動を与えるということで、大口の株主から取得するという選択肢が現実的であるかなということで、ご承知の通り、2003年6月に入りました公的資金の中に普通株式がありますので、預金保険機構のお持ちの株式を取得できないかということ、関係者の方に年明けから打診してまいりました。そして、前向きの見解をいただきましたので、本日、当社株式処分の申し出を行うということによりまして、今回の株式交換を進めることとしたわけとなります。

その手続きのひとつとして、まず、りそな信託銀行とりそなホールディングスとの間で、株式交換契約を締結するということになったわけとなります。株式交換比率としては、りそな信託銀行株式1株に対し、りそなホールディングス株式を2,100株割り当てるということとなります。

リリースペーパーの注記の通り、株式交換比率の算定に当たっては、その公平性・妥当性を確保する観点から、第三者機関に算定を依頼してまいりました。その算定に当たっては、注3にあります通り、DCF方式、類似会社比準方式、修正純資産方式および取引事例による分析から総合的に勘案して、株式交換比率案を出していただきました。その結果として、新株の発行に代えて、自己株式（普通株式）52,500千株を割り当て交付し、株式交

換を実施するというございます。

従いまして、今回、当社は株式交換に際し資本金の増加はない、いわゆる新株は発行しないということと、株式交換交付金等の現金等の交付は行わないということでありませぬ。

次に、自己株式の取得についてであります、すでに昨年の株主総会において、取締役会において自己株式取得を行う旨の定款改正を行っておりますので、今回取締役会において自己株式取得の決議をさせていただきます。目的は、株式交換において割当交付する代用株式を取得するというございます、当社の普通株式 52,500 千株、当社の発行済み株式の 0.46%に相当するということございます。

取得価額の総額の上限を取締役に諮っておかなければならないということ、総額の金額を計上しております。これは実行上の金額ではございませぬ。

それから、自己株式の取得の日程は 17 年 2 月 1 日からであります。なお、当社は現在、端株等で、2,862,425 株を保有しております。

続きまして、52,500 千株の取得の方法ございます、先ほど申し上げましたとおり、預金保険機構から取得するということ、預金保険機構に対して当社普通株式の処分の申し出を、本日行いました。そして、関係当局のご承認をいただいたということであります。取得の手法といたしましては、立会外取引ということ、ToSTNet 2 という方式で取得をさせていただきます。従いまして、本日の終値が 211 円ございますので、明日の 8 時 45 分に東京証券取引所の ToSTNet-2 によって買い付けの委託を行うということであります。

取得後、取得結果を公表させていただきます。

【本社スタッフ採用結果について】

「女性に支持される銀行 No1」を目指そうということ、女性のパワー・センスの活用に取り組んでおります。昨年の 10 月 1 日には、女性みの店舗をスタートさせております。

その後、女性の活用ということ、本部スタッフの募集をしておりましたが、応募が 360 名ございまして、現在 28 名を採用するということ、この 1 月のはじめから 3 月にかけてそれぞれ、現在の仕事を辞めるタイミングもありますので、その都度本部スタッフとして、採用していきたいということございます。今回の 28 名のうち、約半数は金融業以外からということ、百貨店・アパレル・不動産関係、あるいは、コンサルタント、あるいはニュースキャスター、グランドホステスという多彩な顔ぶれの女性を採用し、女性パワーおよび異業種のセンスを活かしていきたいと思っております。

【女性向け投資信託の導入について】

それから、昨年の秋に女性の店舗をスタートさせたことにあわせまして、やはり、女性向けの商品を考えてらということ、指示をしておりましたら、「女性による、女性のための投資信託」を作ろうという女性のプロジェクトチームがスタートいたしまして、来月にはいよいよ販売開始をいたします。当社の女性スタッフ 2 名と、ソシエテ ジェネラル アセットマネジメントの女性スタッフとで、共同プロジェクトチームでりそなグループ 4 社

向けの女性向けの投資信託商品を作るということでもあります。

この商品の開発に当たっては、女性のニーズを探ってもらいまして、やはり女性はリスクに対して許容度が一般的なレベルよりも若干低いというか、安全な商品を志向している、あるいは毎月配当を希望しているという女性のニーズにあわせた商品を組成していただきました。

商品のコンセプトとしては、「もらって、学んで、私（おんな）を磨く」というキャッチフレーズで、これから、お客様に期間限定のプレゼントキャンペーンであるとか、あるいは、お客様向けにセミナーを開催するという予定であります。

また、社内公募によりまして、女性の販売推進プロモーションを行うということで、女性のパワーで投資信託を売る、あるいは女性に幅広く投資信託を理解してもらって、買っていただくという取り組みをやりたいと考えております。

ただ、商品については、これから届出を行うということで、本日時点では、商品のリリースはできませんが、届出が終了次第、リリースをさせていただいて、この新たな女性向けの投資信託の販売に力を入れていきたいと思っております。

【偽造キャッシュカード対策について】

昨年来、憂慮しております偽造キャッシュカードについての対応についてであります。当社グループにおいては、昨年、ATM への「覗き見防止ミラー」の設置や、「ポスター」などによる暗証番号への注意喚起などをさせていただいておりますが、非常に大きな社会的問題になっているということで、次のステップの手を打たなければならないということで、損害保険会社とも保険の導入ができないかという勉強会等をスタートしておりますが、早急に次の手を打ちたいということを考えているところであります。

しかしながら、一方で、りそな銀行におきましては、今年 9 月までシステム統合という大きなプロジェクトがございますので、当面の対策といたしまして、今年度末までに一日の引き出しの限度額を 500 万円から 200 万円程度に引き下げるということをとりあえずやりたいと考えております。そして、システム統合後、今年の後半には、ATM で個別の限度額の設定ができるようなサービスを組み込みたいということを考えております。

また、現在、話題になっております生体認証を含めた「偽造されにくいカード」の IC カード化等については、検討を進めさせていただきたいと思っております。また、CRM の機能を利用して、暗証番号を定期的に変えていただく旨の画面を ATM に表示するなど、今のシステムの改修を行いたいと考えております。また、メーカーとも不正取引検知のシステムを組み込めないかということも勉強させていただいております。

いずれにせよ、銀行にとって信用というものが一番大事なテーマでありますので、真摯に現在の問題を受け止めて、次々と次なる手を打たせていただきたいと考えております。

【海外 IR 報告について】

今月の 19 日から 27 日まで 2 回目の海外 IR に行きまして。私は前回に引き続きロンドン・ボストン・ニューヨークというコースと、欧州大陸からもニーズが高いというこ

とで、川田社長に欧州大陸のほうの IR に回っていただきました。二人で、約 50 社近い投資家に合わせていただきました。

去年は、まだ、日本経済あるいは日本の銀行セクターに関し、半信半疑なところがありました。今年、どの投資家もポジティブに受け止めていただいているということが印象的でありました。

また、昨年よりも、りそなに対する理解も深まって、割と突っ込んだ質問を承ったということでもあります。この 1 年半の成果については、高い評価をしていただいた一方で、やはり本当にオーバーバンキングの日本で、りそなの差別化戦略が成功するのかどうかとか、あるいは 2 兆円の優先株式等の扱いについて、今後どうなるのかというご質問を承りました。

それ以外には、本当に日本の不良債権処理は終わったのかとか、あるいは日本の金融政策はいつ転換期を迎えるのかとか、あるいは日本の金融界の 5 年後、10 年後のピクチャーはどうなるのか、個人的な意見でもいいから教えてほしいということで、結構、私の個人的な見解を求められる質問が多く出ました。

そういう意味では、やはり多くの投資家にりそなグループの取り組みについて理解をしてもらうことが改めて大事だと理解した次第であります。

たまたま、イギリスからアメリカに移動する間にムーディーズの格上げがあったということで、アメリカでは非常に好意的に迎えていただいたというか、「おめでとう」と言って下さる投資家もいたということで、そういう意味では、それなりの成果を上げることができたのではないかなと考えております。

以上